

令和5年度 学校評価 中央小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運送の目標・方針	教育目標『人とのつながりを活かし、自ら可能性を広げる児童の育成』 ～ 自律 × 創造 × つながり力 ～ <ul style="list-style-type: none"> ・自律する子：自分で考え、判断・自己決定し、行動できる子 ・創造する子：自分なりの考えをもとに、新しい考えを創り出す子 ・つながれる子：互いの良さを認め合い、関わりの中で学べる子
本年度の重点目標	職員も児童も地域・保護者も学びが楽しいと実感する学校づくり ○仕事を楽しむ職員室 <ul style="list-style-type: none"> ・「協働」「創造」「喜び」を大切にされた職員組織 ・職員の得意・自分らしさの発揮 ・デジタルを活用した業務改善 ○学習を楽しむ教室 <ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」「授業がおもしろい」と言える児童の増加 ・自分の良さが認められる教室の実現 ○子育て・教育を楽しむ家庭と地域 <ul style="list-style-type: none"> ・学校に興味を持ち、参画する地域住民の増加 ・地域行事との積極的な連携

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。 ・コミュニティ・スクールや地域人材の活用等、地域と協力しながら教育活動を行っている。 	B	メールやHP等を活用して、行事や普段の学習、生活の様子が伝わるように画像やコメントを入れて情報発信している。しかし、保護者はより多くの情報発信を望んでいるため、可能な範囲で情報発信の頻度を上げていく必要がある。また、保護者・地域の方が来校できる機会を今後も設けていく。 地域人材の活用については、総合的な学習の時間を中心として、地域の方や地域の施設の方にゲストティーチャーや授業補助として来ていただき学ぶ機会を作ってきた。また今年度は創立150周年の記念事業を保護者・地域の方の協力のもと実施することができた。今後も家庭や地域と連携しながら教育活動を行っていく。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「人・物・時間」を大切に、家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。 	B	一年を通して、毎月の月目標を「人・物・時間」から一つを生活目標にして取り組むことで、学校生活をより良くしようとする意識が持つことができた。物や時間については、行事等に合わせる行いは効果的だった。人については、友だちの良い所見つけをするなど、相手を大切にしようとする意識は向上した。しかし、名前の呼び方や言葉遣いについては、人権意識が少ないように感じる。引き続き、名前の呼び方等も啓発していきたい。 挨拶も昨年に引き続き取り組んだ。児童では88%と少し向上した。しかし、保護者からは59%と低かった。児童と大人の意識のずれを解消するために、学校・家庭・地域と連携しながら、どこでも挨拶ができる子どもの育成に取り組んでいきたい。
教育課程	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え粘り強く学びに向かう姿に向けて、単元を通じた授業改善に取り 	B	年度当初、「授業で目指す児童像」について学団に分かれて話し合い、子どもの姿から研究主題を共有した。個人研究とも連動させ、学期末に個々で振り返る機会を設けることで組織的な研究推進を図った。しかし、学校教育評価の結果では、学習意欲を高める授業づくりへの教職員

		組む。 ・児童に応じた家庭学習やスキルタイムを実施し、基礎学力の定着を図る。		の意識は十分高まったとはいえない。学級の実態や教科の特性に左右されない学習活動である「対話」について、次年度以降も具体的な方策の一つとして検討していきたい。 丹波市学力調査の結果では、高学年で全国平均と同程度になるなど昨年度から伸びがみられる一方で、中学年では課題が残った。結果から個々の学力実態を把握し、個に応じた手だてを工夫する必要がある。 家庭学習やスキルタイムでは、基礎学力の定着がみられ昨年度から伸びが見られた学年では自主学習などで発展的な内容の学習に、一方で課題残る学年では引き続き基礎的な学習に取り組むなど、各学年の実態に応じた学習を展開できるようにしたい。
課題教育	人権教育	・学校の指導や家庭との連携を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。	B	「自分にはよいところがある」と感じている児童が約9割を占めているが、昨年同様、1割の児童は自己肯定感が低い。今後も家庭と連携を取り、子どもたちそれぞれの伸びや成長を具体的に言葉にして伝えていくことで、自己肯定感を育てていく。また、人権意識についても、高い評価を維持している。しかし、安易に相手を傷つける言葉を使ってしまう姿も見られる。相手の気持ちを想像し、よりよい言葉かけを考える機会を作るなど人権意識を育てていく。

3 学校関係者評価

<p>・挨拶について「よく挨拶をしている。」とした保護者の回答が昨年度から減少している。挨拶の言葉の意味や、行う重要性について考える取り組みを行ってほしい。立ち当番の人など、関わってくれる人の思いを大切にすることが育ってほしい。</p> <p>・引き続き学習意欲を高め、児童が「分かった・できた」と実感できる機会を増やしてほしい。</p> <p>・魅力的な取り組みがたくさんある学校である。「人権感覚が育ってきている。」と回答した保護者の割合が増加しており、友だちや周りの人を大切にすることは、学校行事等の取り組みが繋がっていると思われる。</p> <p>・「自分にはよいところがある。」の問いに否定的回答をした児童が肯定的回答につながるような取り組みが求められる。</p> <p>・複数学年複数担任制の取り組みが4年目を迎え、多くの保護者や学校にその取り組みが周知、評価されてきた。続けていくにあたって出てきた反省を次にいかしてほしい。</p>

4 次年度の改善の方向性

<p>今年度の教育活動については一定の評価を得たが、さらに高められるよう見直しを図り、引き続き実施する。ホームページや広報などを活用し、学校行事や児童の様子を発信するとともに成果だけでなく課題についても保護者や地域住民に伝えられるようにしていく。また、挨拶を通して人とつながる力や、子どもたちの人権感覚を高められるよう保護者、地域と連携して取り組んでいきたい。また、確かな学力の定着に向け、粘り強さや自己調整力を身に付けられるよう、校内研修の充実を旨とする。</p> <p style="text-align: right;">令和 6年 3月 14日 学校名 丹波市立中央小学校 校長名 黒田 睦美</p>
--

(行が足りない場合は、適宜増やしてください。)